

山の百名花 番外編

講師 佐藤 マキ子

【111】リシリヒナゲシ

花好きを魅了してやまない利尻、礼文。

その中でも、利尻山は特別である。稚内から利尻島へ渡るフェリーから眺めるその姿は強烈だ。「リイ・シリ」はアイヌ語で、高い山・島という意味があるように、海から突然立ち上がったようなその姿は、日本海の中の火山島で利尻山そのものが島を形成しているようだ。

リシリと名のつく高山植物は、リシリトウチソウ、リシリゲンゲ、リシリオウギ、リシリリンドウと多いが、中には利尻山意外でも生育しているものもある。

リシリヒナゲシは、ケシ科の多年草で、利尻山の固有種である。葉や茎にあらわい毛があり、葉は羽状にさける。薄くてしわのある花弁が四枚、径4〜5センチの黄色い花をつける。チロルやスロベニアの山で出会ったイエローポピーやアジア北東部原産のシベリアヒナゲシは同属である。

利尻島に上陸した日、島内観光に出かけた。明日はあの頂でリシリヒナゲシに合え

るだろうと心躍らせていたところ、車道側に、黄色い花が咲いている。よく見るとリシリヒナゲシだった。なんか拍子ぬけした。でも、やっぱり利尻山八合目をすぎた砂礫地帯で風にゆれて咲いていたリシリヒナゲシの方が、建気かつ気高く見えたものだった。



【112】イカリソウ

イカリソウはメギ科の多年草で広葉樹林下の原野に生える。根茎から多くの鬚根をつける。草丈20〜30センチ、葉は三出複葉、小葉は先のとがった卵形、縁に刺状の毛が密生する。紅紫色の花が茎頂に総状に集まり下向きに咲く。茎葉が花序の上方までのびる為、花が葉に隠れて見つけにくいこともある。この花の形状が碇に似ていることからこの名がついた。

メギ科のメギといえば、蜜に分岐した刺だらけの枝に厚く小さな葉と目立たない黄色の花をつける灌木で乾燥地帯に生えるが、イカリ草、サンカヨウ、トガクシショウマなどは、深山の雪の残る溪流沿いに咲き競う。

春一番に出かける新潟の山々は残雪と花が楽しめるので毎年楽しみにしている。麓から山頂まで、カタクリ、イチゲ類、エンゴサク、ミスミンソウなどが咲き競う中に、白色のトキワイカリソウを見つけると、そのやさしさに見とれてしまう。

また、変種とされるクリーム色のキバナイカリソウも日本海側には多い。

漢方では、葉や茎を強精剤として用いる。

